

ビデオ分析からみる

日本語授業におけるスライド提示方法の一検討

田中千恵

名古屋大学大学院 国際言語文化研究科

Study of the Slide Presentation Method in the Japanese Class through Video Analysis

Tanaka Chie

Graduate school of Languages and Cultures, Nagoya University

スライドの見せ方の違いによる学習者の授業時の反応の違いを分析し、スライドの効果的な提示方法を検討するため、2種類の異なる見せ方を用いた授業を実施し録画した。ビデオ分析においては、スライドの切り替えと、教師・学習者のセリフ、学習者の反応を書き起こし、差を分析した。結果、1枚のスライド上の情報を一部ずつ提示していく見せ方では新出情報に集中しやすいことがわかり、一度ですべて提示する見せ方では学習者の答えを限定させやすいこと、スライド上の情報を様々な点から探れることがわかった。

キーワード: スライド, 順次表示, 全体表示, ビデオ分析

1. はじめに

1.1 背景

近年、主に大学等の高等教育機関では Microsoft PowerPoint を中心としたスライド（以下、スライド）を用いて日本語の授業を行っているところが増えてきている。だが、日本語の授業におけるスライドの見せ方を扱った先行研究はあまり見られない。本研究では、効果的なスライドの提示方法を検討するため、異なったスライドの見せ方を示すことで、学習者の理解の仕方や思考にどのような影響を与えるのかに着目する。

1.2 先行研究

スライドに関する先行研究は、日本語の授業におけるものとしては、漢字や読解、教科書のデジタルデータ化などが見られる。

山元⁽¹⁾は、他の教材にはないスライドの特徴の一つであるアニメーション機能に着目し、例文提示の際、「教師がジェスチャーや説明をしながら、背景、発話者、聞き手、吹き出し、文字等、順番に提示できる」

とし、「教師が説明を与えるのではなく、絵や例文を一部ずつ見せることで、学習者の気づきを促進できる」と述べている。

本間⁽²⁾は、大学の教養科目の講義において、聾学校出身者と普通高校出身者を対象に、スライドに載せた情報の提示を、一度にすべてを表示したものと、1枚のスライドを部分的に少しずつ順番に表示したものとに分け、アンケート調査を行った。結果は、聾学校出身者には後者が、普通高校出身者には前者の方法が好評であり、学習者の特性によって効果が異なる可能性が示されている。

しかし、この本間の研究で用いられたのはいずれも長い説明文で、1ページあたりの文章量が多い。日本語教育においては1枚のスライドに文字情報を多く載せることは漢字や読解の授業以外ではあまり見られないため、本研究では、視覚教材（イラスト、写真）においてはどのような結果になるかをみる。

1.3 研究の目的

本研究では、本間が行ったスライドの表示方法を参考に、以下の2つの表示方法を定義づける。

順次表示：1枚のスライドに載せた情報を、部分的に少しずつ順番に表示したもの
 全体表示：1枚のスライドに載せた情報を、一度ですべて表示したもの

本研究の目的は、順次表示、全体表示といった異なるスライドの見せ方を学習者に示し、その見せ方の違いによって授業時の学習者の反応にどのような違いが現れるかを分析し、それぞれのスライドの利点を探り、効果的な提示方法を検討することである。

2. 調査方法

本調査は2016年3月、メキシコの大学にて行った。対象者は、学習時間300時間程度の現地日本語初級学習者25名である。調査は3クラスで実施した。

まず、著者が20分程度の授業を実践した後、アンケートを紙面にて行った。授業の内容項目は、変化を表す「形容詞・名詞+なる/する」と、自動詞/他動詞である。3クラス(A, B, C)は各クラスによって人数にばらつきがあるため、AとB, Cでそれぞれ項目と提示方法の組み合わせを変えた。提示順の影響を考慮し、AとBでは変化で順次表示、自動詞/他動詞で全体表示をし、Cはその逆で実施した。

授業内で提示したスライドはすべて、視覚教材(イラスト, 写真)の静止画のみである。また、授業はすべてビデオカメラによる録画と、ICレコーダーによる録音を行った。

アンケートは授業後すぐに、参加者全員に回答してもらった。質問項目は、分かりやすかったか、たくさん話したか、たくさん考えたか、について順次表示/全体表示でそれぞれと、順次表示と全体表示とを比較したものとで答えてもらった。

なお、今回対象となった学習者のほとんどは、変化、自動詞/他動詞ともに半年ほど前に学習済みである。

3. 結果・考察

アンケート調査では、数値的評価と自由記述で答えてもらったが、数値的な差異はあまりみられなかった。

自由記述においては各々の利点が見えた(田中³⁾)が、裏づけとして、授業を録画したビデオの分析も行った。

ビデオ分析では、スライドの提示に合わせ、教師のセリフ、学習者のセリフを文字起こしし、そのときの学習者の動きについて記述した。下記の表はすべて、授業の一部を切り出したものである。セリフの冒頭部分の番号は、各クラスにおいて順次表示・全体表示の最初から通し番号でつけている。なお、同じクラス内で内容が異なる場合には実線を、同じクラス内で内容が続いている場合には点線を、間に挿入した。クラスが異なる場合は表を分けた。表内のTは教師を、Sは学習者を指す。

3.1 新情報追加時

以下の例は、順次表示においてスライド上の情報が新たに加わった瞬間に学習者の発言が出てきたものである。これは、全体表示において次のスライドに移ったときにはみられなかった傾向である。

表 1 新情報追加時の反応 (クラス I)

Tのセリフ	スライド	Sのセリフ
9 汚いですね。でもこれは昨日の部屋です。今日は?	 ↓ 	10 きれいです 11 きれいになりました

表 2 新情報追加時の反応 (クラス II)

6 でもこれは昨日でした。今日は?	 ↓	7 ああ～ 8 きれい 9 になりました
-------------------	--	----------------------------

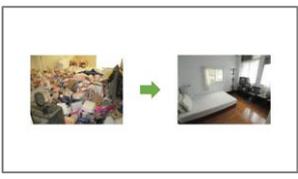
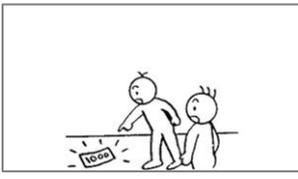
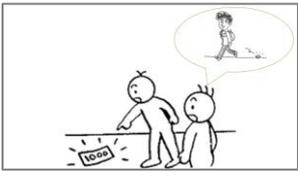
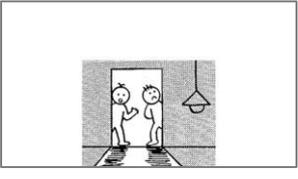
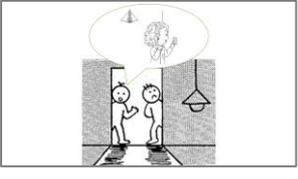
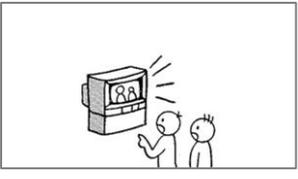
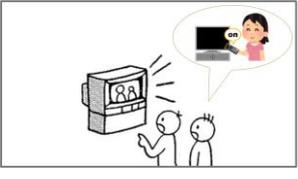
		した
105 Eさんが部屋を明るくします	 ↓ 	106 明るくなりました
107 はい、明るくなりました		

表 3 新情報追加時の反応 (クラスⅢ)

		1 あ、さむ？ 2 涼しい？ 3 寒いです
15 「僕知ってますよ～」 え、Fさん誰ですか！「知ってます知ってます」	 ↓ 	16 あ、先生 17 ああ～ 18 先生が……
30 「違います、Hさんの1000ペソじゃありません」「え、誰ですか」 32 シャルマさん……	 ↓ 	31 シャルマさん 33 が、お金を、 34 落としました (即答数

		人)
54 日本語の宿題がたくさんありますから困りました。誰ですか。Jさんが知っています	 ↓ 	55 リサさん 56 リサさんが、電気を、消しました 58 消しました
81 誰ですか、お金がかかりますよ。私知っています	 ↓ 	82 Mさんが 84 テレビを…… 85 つきます 86 つけました
83 Mさんが……		
94 一つ大きい違いはこれです	 ↓ 	95 ええ！？ (ざわつく) 96 日本のタクシーはドアに…… ドア

		がオートマテックです
--	--	------------

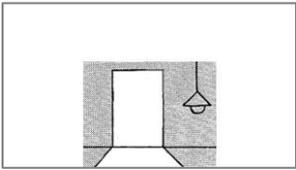
上記の例はいずれも、一部のイラストが既に出ている状態から、残りのイラストを提示した瞬間にみられた学習者の反応である。多くは新しく現れた登場人物についてではあるものの、スライドが切り替わることによって、学習者の中で新たな情報がインプットされ、その点について考えがいくことになるのではないだろうか。つまり、学習者の考え出すきっかけをつくることができるといえるのではないかと考えられる。また、新たに出てきた情報に意識を集中させやすく、教師のコントロールが容易になるのではないかと考えられる。

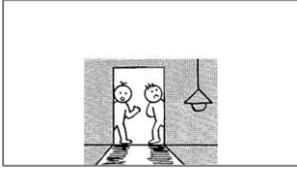
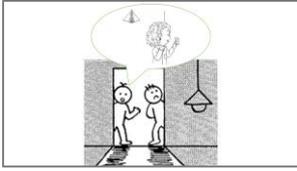
全体表示において次のスライドに移ったときにはこういった例がみられなかった理由としては、スライド上にある情報をインプットするため時間がかかっているからだと推測できる。全体表示ではスライド上の情報を一度に提示するため、スライドが切り替わったときに受け取る情報量が多く、スライドのどこを見るべきかが教師の指示があるまでは学習者にとって掘みにくいのではないかと考えられる。これは逆にいえば、スライド上に情報を散りばめておき、そこから学習者に何かを探させたり、どのような場面ないし状況であるかを一定時間おいて考えさせたりする際には有効であるといえるのではないだろうか。

3.2 時間差・テンポ

以下の例は、学習者と教師によるQAが、リズムカールに進み、所要時間も他と比べて短い箇所である。

表 4 発言までの時間の差・授業のテンポ

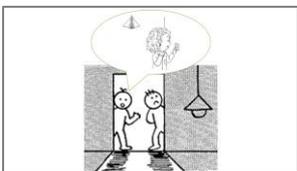
Tのセリフ	スライド	Sのセリフ
(クラス Ⅲ・順 次) 42 なんで しょう 44 教室は どうです か 46 暗いで		43 教室で す 45 暗いで す 47 電気

すね. これなんで すか 48 電気で す. 今, 50 電気… … 52 が?		49 電気… … 51 が 53 消えて います
54 消えて います ね. 困り ました誰 ですか		(笑)
57 リサさ んが電気 を 59 消しま した, 電 気が 61 今		55 リサさ ん 56 リサさ んが, 電 気を, 消 しました (一人) 58 消しま した 60 消えま した 62 消え て? 63 消えて います

ここでは、スライドの切り替えの合間にやりとりを挟みながら展開しているためか、応答がテンポよく感じられる。

これとは逆に、同じ場面での全体表示では、テンポよく進んでいるとは言い難い。

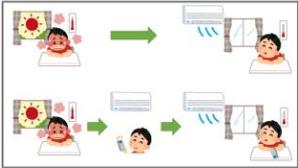
表 5 発言までの時間の差・授業のテンポ(2)

(クラス I・全体) 19 中は今, どうです		20 暗いで
----------------------------------	---	--------

か		す
21 これな んですか		22 電気で す
23 電気は どうです か、今		24 (2 秒後) ついてい ます
26 ついて いますか		25 暗い… …
30 今、電気 が消えて います、困 ります。誰 ですか		27 いいえ … … 消し て……
32 リサさ んなにを しました か		28 消して います
		29 (2 秒後) 消えてい ます
		31 リサさ んです
		33 (3 秒後) 電気を… …消して …… (2 秒 後) 消し… …消しま す?

また、同じクラスにおいても下記のとおり全体表示の際にはそこまでテンポよく進んでいないことがわかる。

表 6 発言までの時間の差・授業のテンポ(3)

(クラス Ⅲ・全体)		
27 暑くな りました。 うわ 40 度		28 おおー …… (笑)
29 でも? (右側の 絵を指し)		30 えーと、 えーと
		31 涼し…

		…
33 ここは どこでし ょうか		32 涼しく なりました た
35 そう、部 屋……		34 (5 秒後) 部屋?
37 部屋が		36 部屋… …が、
		38 涼しく なりました た

無論、語彙が出てこなかったという可能性もあるが、全体表示の場合、教師による指差しがあったとしても、どうしても他の箇所を見てしまうこともあり、特定の箇所に集中できずに答えがすぐには出てこないということも考えられる。テンポがいいということは、教師にとってはクラスのコントロールをとりやすいということに結びつく。自由に発言してもらいたいときは別として、状況の確認やクローズドクエスチョンの際には有効であろう。これは、テンポのよさという点からすると、フラッシュカードの使い方と類似しており、順次表示の効果的な使い方の一つであるといえる。

3.3 時間差・考え

以下の例は、同じ場面において、順次表示のクラスと全体表示のクラスとで、考えた上で発言をしているのか、考えず即答しているかの違いが出た箇所である。

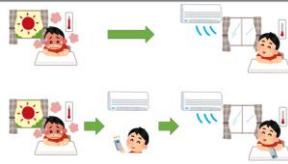
表 7 時間差・考え (クラス I)

Tのセリフ	スライド	Sのセリフ
42 暑いと きなにを しますか		43 (7 秒 後) 窓を 開けます
44 教室が とても暑 いです		45 (7 秒 後) ドア を開けま す
46 とても 涼しい部 屋がいい です		47 (1 秒 後) エア コンをつ けます

表 8 時間差・考え (クラスⅡ)

42 じゃあ 暑いとき、 なにを しますか		43 水を飲 みます 44 プール で泳ぎま す 45 エアコ ンをつけ ます
--------------------------------	---	--

表 9 時間差・考え (クラスⅢ)

39 じゃあ、 暑いとき、 Cさんなに をしますか		40 エアコ ンをつけ ます 41 エアコ ン…… 42 エアコ ンをつけ ます
------------------------------------	---	---

教師側からキューを出した際に、順次表示では、次に出てくる情報がまだ提示されないため学習者が自分で考えなければならず、実際に少し考えてから発言している様子や、様々な答えを返している様子がみられた。しかし、全体表示の場合、答えが既にスライド上に用意されているようなものなので、学習者は自分で考える必要性がなく、考える間もなく即答している様子が窺える。つまり、学習者自身の意見を大切にしたい場合には順次表示にして解答部分を隠しておき、逆に学習者の自由な意見を求めず状況把握などの事実確認がしたい場合には全体表示であらかじめすべて提示しておく効果的ではないかと考えられる。

3.4 視線

次の例は、教師が指でスライド上の該当箇所を示していたが、学習者の視線が一定ではなく、その該当箇所を見ていたり他のところを見ていたりしていた場面である。なお、発言者の方を向く、スライドが見えず首を動かす、明らかにスライドとはまったく別の方向を向いている、といったものは除外した。

表 10 視線 (クラスⅠ)

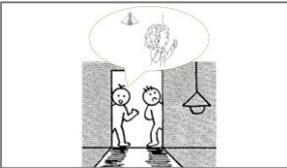
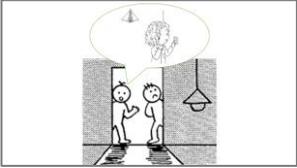
Tの セリフ	スライド	Sの セリフ	Sの 動き
19 ここ は教室 です。 どうで すか 21 これ なんで ですか 23 電気 はどう です か、今 26 つい ていま すか		20 暗い です 22 電気 です 24 (2 秒後) ついて います 25 暗い …… 27 いい え…… 消して …… 28 消し ていま す 29 (2 秒後) 消えて います	B: 左を 見る

表 11 視線 (クラスⅡ)

3 どう して寒 いです か 5 寒い です誰 です か! あ、僕 知って		4 エア コンが ついて います	L: 右を 見る
--	--	---------------------------	----------------

<p>ますよ (人指差し) 7 そ う、木 村先生 が? (リモ コンの 動作)</p>		<p>6 木村 先生</p> <p>8 エア コンを つけま した</p>	<p>K: 左の 方を見 る</p>
<p>19 電気を?</p>		<p>20 (2 秒後) つ…… けま す? 21 つき ます? 22 消え ます? 24 消し ます?</p>	<p>K: 左の 方を見 る</p>
<p>23 「つ けま す」の 反対?</p>			
<p>28 1000 ペソで す、道 です 30 今?</p>		<p>29 (1 秒後) 落ちま す?</p> <p>31 えー ……落 ちてい ます</p>	<p>M: 右を見 る</p>
<p>53 みな さんの 家の前 です。 これ は? 55 車で すね。 今</p>		<p>54 車で す</p> <p>56 止ま って います</p>	<p>L: 右を見 る</p>

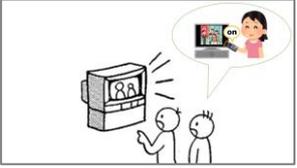
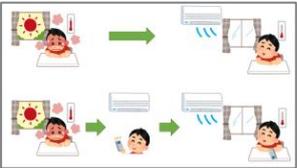
<p>64 閉ま って います ね ～お手 洗いだ ったら 困りま す。誰 です か、I さん?</p>		<p>65 I さん が、ド アを… … 66 閉め ました 67 閉ま りま す? 68 閉め ました</p>	<p>I: 左を見 る</p>
<p>72 テレ ビが? 74 つい ていま すね。 誰です か、J さん?</p>		<p>73 つい ていま す 75 J さん が、テ レビを 76 つい ていま す? 77 つけ ました</p>	<p>I: 左を見 る</p>

表 12 視線 (クラスⅢ)

<p>27 暑く なりま した。 うわ 40 度 29 でも (右側 の絵を 指し)</p>		<p>28 おお ー…… (笑)</p> <p>30 えー と、え ーと 31 涼し …… 32 涼し くなり ました</p>	<p>T: スラ イド の右 下方 をチ ラ見 ました</p>
--	--	---	---

ここでは9回、スライドの他の箇所を見ていた様子が窺えた。

全体表示においては、一部ずつ提示される順次表示と異なり、一度にすべての情報が提示されたまま進んでいく。そのため、全体を把握したり、わからないことや思い出すヒントを探そうとしたりする際に、スライドの該当箇所以外を見るのではないかと考えられる。なお、これはどのクラスにおいても順次表示の際には見受けられなかった。つまり、表1の新情報追加時の反応の考察と併せて考えると、特定の事柄に集中させたいときには順次表示、そのような必要はなく全体を把握させたいときや、いろいろなどころを見てほしい場合には全体表示を用いると効果的であると考えられる。

4. おわりに

4.1 まとめ

以上、ビデオ分析から、順次表示および全体表示それぞれの利点は以下のようにまとめられる。

表 7 表示別利点まとめ

<p>【順次表示】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 情報を少しずつ提示するため、新しく示した箇所に集中しやすい➤ テンポよく進めやすく、そのため教師によるコントロールがとりやすい➤ 学習者がスライド上にない情報まで含めて自分で考えをめぐらせやすい <p>【全体表示】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 最初からスライド上に全ての情報が表示されているため、学習者から引き出す答えを限定させやすく、その点から教師によるコントロールがとりやすい➤ 学習者がスライド上の情報を一点に絞らず様々な点から探れる

同じ「教師によるコントロールの容易さ」といっても、テンポを重視する場合と学習者から引き出したい答えを限定する場合とで、表示の使い分けをすると効果があるのではないかと考えられる。

4.2 今後の課題

今回の調査では、対象者数が少ないこと、初めて会う学習者との単発授業であること、対象項目が2つと限定的であること、学習者にとっては既習であることなどの要因から、通常行われている日本語の授業においても同様のことがいえるかまでは厳しい。今後は、通常の日本語の授業において、学習者の意見や反応を受けながら、項目による差の基準や目安を見出していきたいと考えている。

参 考 文 献

- (1) 山元淑乃: “パワーポイントを用いた文型学習—「主語」を導入しない第一課—”, 留学生教育, Vol. 5, pp. 51-63 (2008)
- (2) 本間巖: “パワーポイントによる資料提示方法と効果に関する研究”, 筑波技術大学テクノレポート, Vol. 14, pp. 195-199 (2007)
- (3) 田中千恵: “スライドの見せ方が学習者の理解や思考に与える影響”, 日本語教育方法研究会誌, Vol. 23, No.1 pp. 58-59 (2016)